

令和四年度 卒業式 式辞

今年の寒さは厳しく、珍しくこのキャンパスにも雪が積もり寒風が吹きすざぶ日もありました。最近の日差しには少しづつぬくもりがあり、花や緑から春の息吹を感じます。季節は確実に移り変わり、長く寒い冬であっても春は忘れることなくやってきます。季節の移り変わりは私たちの人生そのものです。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業していく二十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席のご家族の皆様にも、心よりお祝いを申しあげます。

また、長引く新型コロナウイルス禍の中で、感染拡大防止のため式そのものの規模縮小と時間短縮のため、来賓のご臨席は今年もご遠慮を頂いております。しかしながら卒業生への祝福の気持ちには変わることなく頂いておりますので、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申しあげます。

さて卒業生の皆さんは、二年前に花と緑の知識と技能を身に付けることを目標に、本校に入学してこられました。今、今日のこのよき日を迎えるにあたって、このキャンパスで過ごした楽しくもあり苦しくもあったであろう様々なことが頭の中を駆け巡っていることと思います。

しかしこの二年間は、新型コロナウイルスという目に見えない敵に大きく影響を受け翻弄され続けた歲月でした。

楽しみにしていたであろう海外視察研修に行けず、国内視察に切り替えました。そのような状況でありながらも、現状を甘んじて受け入れ最善の努力をしてくれた皆さんに改めて敬意を表しますとともに、お詫びします。

花と緑があふれ自然の中にあるキャンパスで友人とともに学んだ日々は、皆さんの人生にとってかけがいのないものです。

そのかけがない「経験」こそが人生の本質であり、私たちが学び続けることができます。しかし経験だけでは実際には「自信」を得ることができません。自信は経験から得た「知識」を活用し自分自身を信じていることから生まれます。経験を通じて得た知識をもとに自分自身を信じていることが大切なのです。

そして、経験を通じて学んだことを他の人に教え、他の人と共有することも大切です。これは他の人からのフィードバックやアドバイスを受けることができ、自分自身の成長を促すことができるからです。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えることができるのは、たゆまぬ努力の賜物であるのはもちろんですが、支えていただけたご家族や関係者のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。

支えてくれるものの強さと優しさ、有難さに気づいて「感謝できる人」になってください。

「過去」を心の栄養として、「現在」をその実践とし、「未来」は自省と希望と挑戦、そして志の時です

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉とします。

令和五年三月二日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 今西 良共